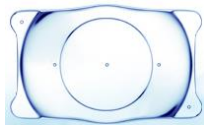




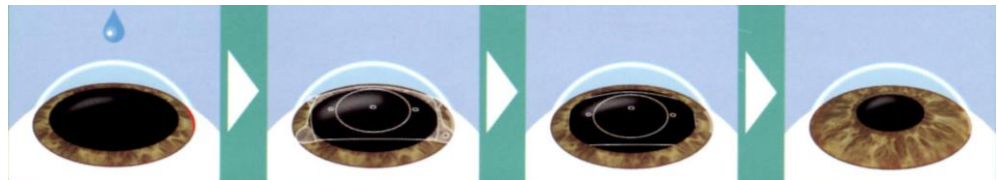
## 眼内コンタクトレンズ治療

### 有水晶体眼内レンズ (ICL・アルチザン)

眼内コンタクトレンズ治療 はレンズを眼の中に入れて視力を矯正する治療法です。



有水晶体眼内レンズ  
ICL



瞳孔を散瞳させ  
点眼麻酔をして  
角膜の縁を約 3mm  
切開します。

切開した部分から  
レンズを挿入しま  
す。

レンズを虹彩と水  
晶体の間に固定し  
ます。

瞳孔を縮瞳させ手  
術は終了です。

屈折矯正手術は大きく 2 つに分けることができます。1 つは、眼の表面(角膜)にエキシマレーザーを照射し屈折力を変える方法です。LASIK や PRK 等があります。もう 1 つは眼の中にレンズを挿入して矯正する方法です。このレンズのことを「有水晶体眼内レンズ」と呼びます。眼内に入れるコンタクトレンズのことです。

ソフトコンタクトレンズのような柔らかい無色透明の素材で、長期にわたって眼内で安定する生体適合性の良い素材と言われています。レンズは黒目(虹彩)の後ろ側と水晶体の前面の間に固定しますので、人に気づかれることはありません。

強度の近視や角膜の薄い場合 LASIK や PRK の適応外の方でも視力を矯正することが可能です。また、レンズを取り外すことができるので、眼に何らかのトラブルが生じた場合はレンズを取り出し元の状態に戻すことができます。将来「眼の治療」が必要になった際に、治療の選択肢が狭まるようなことはありません。

日本では、有水晶体眼内レンズ挿入にかかる費用は「保険適応外・自費診療」となります。治療の適応・効果には個人差がありますので、ご興味を持たれた方は一度スタッフにご相談ください。当院では月に一度「無料説明会」を開催中です。

毎月〈無料説明会〉開催中

LASIK・屈折矯正(オルソケラトロジー・有水晶体眼内レンズ)

ご家族・ご友人をお誘いのうえ  
是非ともご参加ください。

9月2日(土)・10月7日(土)  
11月11日(土)・12月2日(土)

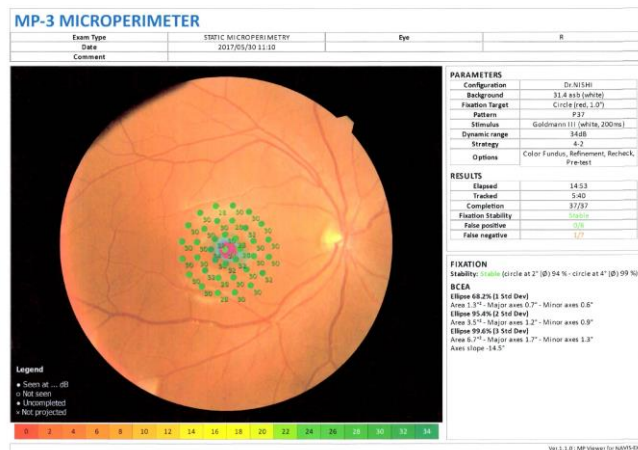
午前 10:30～ (1 時間)

西眼科病院 1F 飲食コーナーにて

# 最新鋭☆眼科検査機器

**マイクロペリメータ MP-3**：私たちは網膜にある視細胞と神経細胞によって光を感じます。視細胞と神経細胞による感度を「視感度」と呼びます。マイクロペリメータ MP-3 は網膜の黄斑部の視感度(網膜機能)を詳細に測定します。従来機よりも検査性能が向上し黄斑疾患眼の治療に対する効果の判定、経過観察に優れた検査機器です。眼疾患の早期発見がより有効になりました。

## MP-3 MICROPERIMETER



## 国内外の学会・講演活動

- 5月「第14回平成29年度静岡県東部眼科フォーラム」において西 悠太郎(学術部長)は「フェムトセカンドレーザー白内障手術の展望」と題し特別講演を行いました。
- 7月西 起史(院長) (1998年からヨーロッパ白内障・屈折矯正手術学会(ESCRS) [Video Competition](#) の審査員)は2017年の受賞者を選考するためロンドンへ渡英。世界各国の眼科医が毎年、最先端の「白内障手術」「眼内レンズ挿入術」「屈折矯正手術」に関するトピックを8分間程のVideo(動画)に編集し投稿。審査員は全50作品5つのカテゴリー「Educational」「Innovative」「Scientific」「Special Cases」「Residents in Training」の中からカテゴリー毎に1・2・3位 Prize を選考。更に各カテゴリーの頂点(1位)から [Grand Prize](#) を決定します。1次・2次と選考後7月3次最終選考会のため各国(ヨーロッパ、アメリカ、イスラエル、日本から)審査員がロンドンに集結しました。10人の審査員の公正な議論のもと [Prize](#)・[Grand Prize](#) が選考されました。今年の受賞者の発表は10月ESCRSポルトガルで行われます。
- 「最新の眼科医療」を提供できるよう、当院のスタッフは国内外のさまざまな学会・講演会に参加しております。病院内では、最新情報をもとに定期的に勉強会・検討会を行い、自らのスキルアップに日々精進しております。

## 特殊外来・専門外来のご案内

屈折矯正外来(多焦点IOL・LASIK・フェイクIOL・オルソケラトロジー)・角膜外来(角膜疾患全般・PKP・DSAEK・羊膜移植・クロスリンク)・ドライアイ外来・ブドウ膜外来・涙道外来(チュービング・DCR)・網膜硝子体外来(メディカルレチナ・サージカルレチナ)・黄斑網膜外来・緑内障外来

基本理念のもと、当院は常日頃からスタッフ全員で症例の共有を行い、患者さんにとっての最適解を選択しております。